

COLORAMA

L'ENCICLOPEDIA TUTTA A COLORI

21世紀
世界百科

カロラマ

1

監 修

上智大学名誉教授

小 林 珍 雄

早稲田大学教授

坂 崎 乙 郎

日本イタリア京都会館理事長

聖心女子大学教授

京都大学名誉教授

野 上 素 一

日本育英会会長

前 東京大学総長

林 健 太 郎

(50音順)

© Arnoldo Mondadori Editore - Milano 1970
Originally Published in Italy under the title 'COLORAMA',
Published in Japan 1979
by Shufu - to - Seikatsu - Sha Ltd., Tokyo.
Japanese translation rights
arranged with Arnoldo Mondadori Editore - Milano
through Tuttle - Mori Agency, Inc., Tokyo.
Credit lines and original publications
of the photographs and materials
used in these books are listed
on the 4th page of the supplement
found at the end of the 10th volume.

刊行のこ と ば

今日までに刊行された日本の百科事典は、まず知りたいと思う項目を探し出し、その解説を読んで理解する——つまり、必要が先に立っての知識吸収という型式がとられてきておりました。

しかし、現代に生きる人びとが求めている百科事典による知識修得の方法は、もっとビジュアルな刺激によるものではないでしょうか。

それは、いうならば、興味にみちびかれて知らず知らずのうちに、幅広い知識が自分のものにできる方法であり、また、視覚によって好奇心をそそられ、それをたしかな自分の知識に転化させていく方法でありましょう。これらの方法を具体化するにはどうすればよいかという発想によって生みだされたいくつかの着想が、このカロラマを企画する動機になっているのであります。

本書カロラマは汲めども尽きぬユニークな「情報の泉」であるとともに、人びとの底しれぬ知識欲と好奇心を満足させずにはおかない「多彩な知識の森」とも申せましょう。

あなたは、この魅力あふれる森の自由な散歩道で、きっと興味をひかれるいくつかの写真に出会われ、そこに足をとめて観賞されてから、解説文字の方に目を移されるにちがいありません。まさに画期的な「見て学ぶ世界百科」の誕生です。

さらに、カロラマのもつ不思議な魅力を倍加させるため、斬新な歴史地図や海底地形図などのほかに、創意に満ちた新型式の写真だけの詳細な索引を別冊として収録いたしました。

本書カロラマは、ヨーロッパ第一級の出版社イタリアのモンダドーリ社刊“COLORAMA”(カラーパノラマのように見るの意)を原典とし、そのもつヨーロッパ的、地中海的香気を余すところなく生かしながら、さらに現代日本の知識人が求めている鋭角的な数千の項目と、1200点以上の新しい写真を追加し、全巻にわたって再編集したものであります。

世界に通用する知識が、大きく求められている今日のわが国において、本書は、あなたと、あなたのご家族のお役に立つことができる幅広い教養につながるものと信じます。

私が原典を手にしてから発刊の日まで、すでに5年の歳月が過ぎました。しかしカロラマはみずみずしく息づき、そして、これから迎えるどのような時代にも、さらに新鮮に改訂されながら、日本の文化とともに力強く生きつづけていくことでありましょう。

1979年1月1日（発刊の日）

株式会社 主婦と生活社
代表取締役会長 遠藤左介

凡 例

本書「21世紀世界百科——カラマ」は、イタリア、MONDADORI 社発行の“COLORAMA — L'ENCICLOPEDIA TUTTA A COLORI”を原典としている。本書は、日本の読者のための COLORAMA として、原典の細部にわたって検討を加え、さらにフランス語版を参照して再編集したものである。

構 成

本書は全11巻からなる。このうち、第1巻から第10巻までの3084ページが本文であり、ページ番号は各巻で区切らず、通し番号とした。

本文の各ページは、基本的に、解説文のみの一般項目と、写真と解説文とからなる写真項目とで構成し、紙面の上段に一般項目を、その下、1ページの約3分の2のスペースに写真項目を配した。

第11巻は、各種地図などの参考図版と写真索引とで構成した。

一般項目、写真項目について

項目の選定にあたっては、できるかぎり、原典の項目を載録するようつとめたが、必要に応じて項目の補充・省略をおこなった。また、日本で2種以上の表記や呼称の慣用が定着している場合は、項目見出しとして採用した表記あるいは呼称への送りを示した。

例 キュビズム □ リったいは

概して、一般項目では、基本的な知識の拡充を目的としており、広範な分野にわたって人物、概念、用語、事象などを取り上げた。

いっぽう、写真項目では、項目内容を解説すると同時に、全巻で1万点余におよぶカラー写真を活用して、読み物としての要素も加えた。とくに、写真に1ページの約3分の2のスペースを用い、その下に項目解説を配するというスタイルは、本書の特色である。

このスタイルによって、従来の〈検索するための百科事典〉という概念を打破し、検索の機能とともに、〈写真を楽しみながら読む百科事典〉としての性格を浮き彫りにした。

さらに、原典の写真をできるだけかぎり使用したことにより、芸術、歴史分野ではルネサンスおよび古代期の貴重な文化遺産の写真、また、生物分野では日本で一般に見られない動植物などの写真を多く収録することができ、この点でも他に比類のないものとなった。

写真項目は、1項目1枚の写真とはかぎらず、何枚かの組写真を使用して項目内容を表現している。また、スペースも、1項目で最低1ページを必ず用い、項目によっては、2～3ページをついやしているものもある。そのうえ、さらに多くの写真を必要とする項目の場合は、上段の一般項目のスペースにも写真を配し、見開き2ページいっばいを写真スペースとした。

なお、写真項目の検索の便を考慮して、一般項目のスペース中の該当する音順に、表音見出しを挿入し、〔写真項目〕と青字で指示した。解説文は、原則としてこの

指示のあるページの前後2ページ以内にある。その場合、ページ指示のないものは、そのページ下段の写真項目であることを示し、それ以外は、前ページ、次ページなどを指示している。

例 タッソ → |写真項目| 次ページ。

1項目内の各写真には、1点ごとに右下に写真番号を付し、解説文中で写真を説明するさい、この番号を用いて、写真①、写真②、のように示した。この写真番号は、第11巻の写真索引でも用いている。

見 出 し

見出しは、表音見出しと本見出しの2種であらわした。

表音見出し

(1)日本語および日本読みのものは、現代かなづかいにより、ひらがなを、外国語および外国読みのものは、カタカナを用いた。拗音・促音は小字、長音は音引きで示した。

例 せいかく
コイル
へんきよく
スポットライト
アイロニー

(2)日本語と外国語による合成語は、日本語の部分をひらがな、外国語の部分をカタカナで示した。

例 ピータールーのぎゃくさつ

(3)外国語および外国の地名・人名については、原則として、現地読みに近い読み方に従って示したが、慣用に従った場合もある。

例 アネルセン (アンデルセン)
イソップ (アイソボス)

(4)中国・朝鮮の地名・人名についても、他の外国と同様に、現地読みに近い読み方に従ったが、歴史的地名および歴史上の人物については、日本読み(漢字音読み)で示した。この場合、歴史上の人物とは、1940年以前に活動した人物をいう。なお、現地読みに従った地名と人名については、第10巻の巻末に、〈地名・人名表記便覧(中国・朝鮮)〉を設け、日本読みとの対照を示した。

例 シエンアン 咸陽
キムイルソン 金日成 1912～
うんこう 雲崗
いおうぶつ 韋応物 737?～800?

(5)機構・組織名は、原則として正式名称で示したが、慣用から略称を用いた場合もある。

例 こくさいオリンピックいいんかい (IOC)
ユネスコ (国際連合教育科学文化機関)

(6)生物名については、門、綱、目、科、属など、分類上の名称で示した場合、分類単位をカッコの中に添えた。

例 れんじゃく (科)
シクラメン (属)

本見出し

(1)日本語および日本読みのものは漢字とひらがなで示した。

- 例 あおいとり 青い鳥
- (2)外国語および外国の地名・人名は原語で示したが、ラテン字母(ローマ字)および漢字以外のものは、ローマ字化して示した。なお、固有名詞を除いて、原語には、かっこの中に言語名を示したが、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語の場合、漢字の略記、英、独、仏、伊を用いた。

- 例 サブラタ Sabrata
 テオクリトス Theokritos
 アウロス aulos(ギリシア)
 レーヨン rayon(英)
- (3)中国・朝鮮などを除く外国の人名には、表音見出しにかかわらず、原語はできるだけフルネームで示した。
- 例 ヘンデル Georg Friedrich Händel
- (4)日本語と外国語の合成語は、日本語の部分を漢字あるいはひらがな、外国語の部分をダッシュ(——)で示した。
- 例 スペインしみんせんそう ——市民戦争
- (5)日本語による生物の種名(標準和名)、属名、科名のうち、すべての文字が当用漢字で表記できるものは漢字で示した。

- 例 くろうたどり 黒歌鳥
- (6)生物の目以上の分類名については、当用漢字表外文字も併用した。ただし、分類名が生物の種名と一致するもの、あるいは、付属語をつけて生物の種名となるものは、前述の(5)に準じた。

- 例 はちゅうるい(綱) 爬虫類
 うに(綱)
- (7)生物の種名、分類名、および星座名には、学名をイタリック体で示し、略記号(学)を添えた。
- 例 もろこしそう *Lysimachia sikokiana*(学)
 おおぐまざ 大熊座 *Ursa Major*(学)
- (8)実在の人物の項目には、生没年を添えた。ただし、不明の場合には、生没年不詳、あるいは、疑問符(?)とし、2 説ある場合には、双方を/で示した。

- 例 モデナ Gustavo Modena 1803~63
 マルクーゼ Herbert Marcuze 1898~
 ババブーティ Bhavabhūti 生没年不詳
 モニカ Monica 331? ~387
 レオーネ Sergio Leone ? ~
 ウッチェロ Paolo Uccello 1396/7~1475

項目の配列

項目の配列は、一般項目・写真項目ともに、表音見出しの五十音順とし、拗音・促音も音順にかぞえ、清音→濁音→半濁音 の順とした。長音は音順にはかぞえないが、長音のあるものは、ないもののあとにした。

- 例 ハン
 ハーン
 ばん
 パン

なお、検索の目安として、各ページ上方に〈柱〉を設けた。〈柱〉は、奇数ページでは最後の項目、偶数ペー

ジでは最初の項目から、標準的に3字を示した。ただし、当該項目の表音見出しが2字の場合は2字とし、3字まででは前の項目あるいは次の項目との区別がつかない場合は、4字または5字を示した。また、〈柱〉を示すにあたって、濁音、半濁音は清音とし、長音、小字は用いなかった。

第11巻について

第11巻は、各種地図などの参考図版と写真索引とで構成した。

参考図版としては、とくに歴史項目の理解の補助としての〈歴史地図〉、五大洋を網羅した〈海底地形図〉をはじめ、〈世界〉では、地球全体および大州別の地勢図、さらに大州別の国勢図を示し、〈世界の人種・言語・宗教〉では、それぞれの分布図を収録した。

写真索引は、写真項目で示した各写真を1点ごとに検討し、読みとれる内容を「写真見出し語」として配列したもので、さまざまな角度からの利用を考慮し、〈五十音順〉、〈ジャンル別〉、〈歴史・文明〉の3種を設けた。

この索引によって、当該写真項目以外の項目からも、参考となる写真の検索が可能になり、よりひろく、より深い理解の補助をすると同時に、本書を写真による百科事典としても利用できるようにした。なお、利用法の詳細は、第11巻〈写真索引〉冒頭の凡例に示している。

《記号・略号》

A	アンペア	kcal	キロカロリー
Å	オングストローム	kV	キロボルト
A.D.	紀元後	kW	キロワット
B.	湾	kWh	キロワット時
Ba.	盆地	l-	左旋
B.C.	紀元前	L.	湖
c	サイクル	m-	メタ
C.	岬	Mc	メガサイクル
cal	カロリー	Mt.	山
Cal	大カロリー	Mts.	山脈、山地
Chan.	海峡	μ	マイクロン、ミュー
d-	右旋	o-	オルト
D.	砂漠	p-	バラ
dB	デシベル	Pen.	半島
dyn	ダイン	pH	ペーハー
eV	電子ボルト	Plat.	台地、高原
F	ファラッド	R.	川
G.	湾	S.	海
h	時	s	秒
Hz	ヘルツ	Str.	海峡
I.	島	V	ボルト
Is.	諸島	W	ワット
kc	キロサイクル	Ω	オーム

目 次

五十音順

あ…… 1～ 155	い…… 156～ 241	う…… 242～ 291	え…… 292～ 353	お…… 354～ 416
か…… 417～ 611	き…… 612～ 711	く…… 712～ 809	け…… 810～ 867	こ…… 868～ 999
さ…… 1000～ 1077	し…… 1078～ 1307	す…… 1308～ 1389	せ…… 1390～ 1472	そ…… 1473～ 1504
た…… 1505～ 1583	ち…… 1584～ 1643	つ…… 1644～ 1655	て…… 1656～ 1735	と…… 1736～ 1831
な…… 1832～ 1861	に…… 1862～ 1890	ぬ…… 1891～ 1894	ね…… 1895～ 1912	の…… 1913～ 1927
は…… 1928～ 2074	ひ…… 2075～ 2162	ふ…… 2163～ 2350	へ…… 2351～ 2441	ほ…… 2442～ 2534
ま…… 2535～ 2634	み…… 2635～ 2672	む…… 2673～ 2687	め…… 2688～ 2718	も…… 2719～ 2769
や…… 2770～ 2783		ゆ…… 2784～ 2809		よ…… 2810～ 2836
ら…… 2837～ 2887	り…… 2888～ 2942	る…… 2943～ 2976	れ…… 2977～ 3011	ろ…… 3012～ 3065
わ…… 3066～ 3084				

各 巻 別

第1巻	あい —— エチケツト……………	1～ 312
第2巻	エチュード —— キケロ……………	313～ 624
第3巻	きけんこぼ —— こつつぼ……………	625～ 936
第4巻	コツト —— しょくぶつえん……………	937～ 1248
第5巻	しょくぶつがく —— たまむし……………	1249～ 1560
第6巻	たまやすで —— ニッティ……………	1561～ 1872
第7巻	ニップール —— ふえだい……………	1873～ 2184
第8巻	フェッファー —— ホノリウス2世……………	2185～ 2496
第9巻	ホノリウス4世 —— ユリウス3世……………	2497～ 2808
第10巻	ユリウス2世 —— ワンダーフォーゲル……………	2809～ 3084
	地名・人名表記便覧（中国，朝鮮）……………	ii ～ iii
第11巻	歴史地図……………	3087～ 3108
	歴史地図索引 （3107～3108）……………	
	世 界……………	3109～ 3123
	海底地形図……………	3125～ 3131
	世界の人種……………	3134～ 3135
	世界の言語……………	3136～ 3137
	世界の宗教……………	3138～ 3139
	写真索引……………	1～ 129
	写真索引凡例 （3～5）……………	
	五十音順 （6～63）……………	
	ジャンル別 （64～114）……………	
	歴史・文明 （115～129）……………	

あ—ア

あい 愛 愛の概念はきわめて多義的で矛盾にみちているが、経験的には自明の感情であり、人間の創造活動の契機となる心的働き、生命の根源的力といえる。愛は自己の貧しさ、不完全さを補おうとする欲求において発現し、明確な対象を求める肉体的、精神的、意志的作用であって、忍耐、自己犠牲、憧れ、快楽をとまなう。プラトンの説くエロスは、肉体の美から魂の美、さらに、より高い真・善・美のアイデアを求める永続的憧れ、不断の努力であり、自己実現の道である。これに対して自己を超越し、自己愛を否定する精神的愛アガペー(神の愛)は、キリストの受難において証された無償、無動機のアガペーであり、神と人との人格的交流を至上のものとし、愛徳の他者実現としての隣人愛を成立させる。なお、正義と秩序において成立する相互応酬的愛はフィリアである。

アイアイ *Daubentonia madagascariensis* (学) 哺乳類霊長目アイアイ科のサル。1科1種。マダガスカル島北部の降雨林に生息するリスに似たキツネザルで、頭胴長約40センチ、尾長約60センチ、全身に茶褐色の長毛が密生し、頭部はまるく、目と耳が大きい。手足の指は全身にくらべて異常なくらい長く、第1指が他の指と対向していて物をつかみやすくなっている。別名ユビザル。

アイエムエフ IMF ⇨ こくさいつうかききん

アイエルオー ILO ⇨ こくさいろうどうきかん

アイオーシー IOC ⇨ こくさいオリンピックいいんかい

アイオワ Iowa アメリカ合衆国、中央大平原の州。面積14万4100平方キロ。人口278万9900(1970)。州都デモイン。ミシシッピとミズーリの両川のあいだに位置しており、土地がプレーリー土壌で肥え、また、年平均気温が10度と湿潤大陸性暖夏型気候に恵まれているところから、典型的な農業地域となっている。合衆国1位のブタ、鶏卵、2位のウシなど家畜の飼育に重点がおかれ、農業も、その飼料となるトウモロコシや、カラスミギが中心。かなりの量の石炭が埋蔵されているが、農業的な体質のため、農業機械、電機、化学などの工業の比重は低い。古くはフランスの植民地であったが、1803年に合衆国が購入し、38年に准州、46年に29番目の州となった。

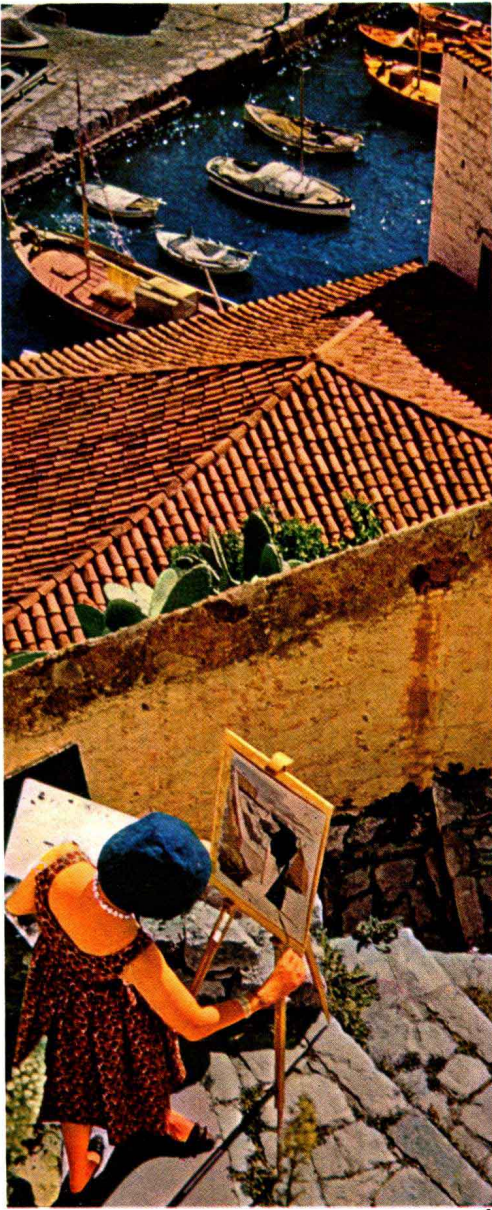
アイガー Eiger スイス南部、西アルプスのベルナー・オーバーラントにある峰。標高3970メートル。麓はアルプス観光の中心地であるが、その頂は登山家たちの征服欲をかりたて、多くの生命を奪ってきた。とくに、1800メートルの大絶壁からなる北壁は登攀(とうはん)の困難なコースであったが、夏期は1938年、冬期は61年に、いずれもドイツ・オーストリア隊によって征服された。

アイギストス Aigisthos ギリシア神話でのチュエステスの息子。アガメムノンのいとこで、アガメムノンがトロヤ戦争のギリシア軍総大将として出征中に、彼の妻クリュタイムネストラを誘惑し、帰途についたアガメムノンを殺して、アルゴスの城主となったが、のちに成長したアガメムノンとクリュタイムネストラとの息子オレステスに殺された。

アイギナとう → [写真項目]

あいくおう ⇨ アショウカ

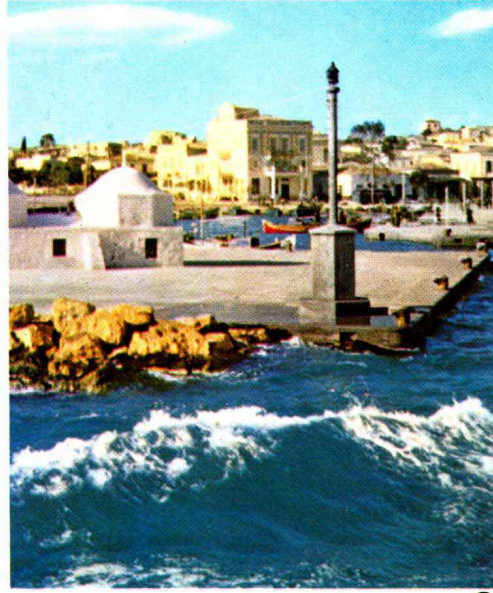
アイグン 愛琿 中国東北部、黒竜江(ハイルンチャン)省の都市。アイフンとも呼ばれる。ソビエト連邦との国境をなすアムール川右岸にあり、同川をはさんでソ連邦のブラゴベシチェンスクと対している。古くから交通の要地として商業でにぎわい、1858年には同地で清朝と帝政ロシアとのあいだに「愛琿条約」が結ばれて両国の国境が定められた。今日では、付近に金鉱が開発されている。



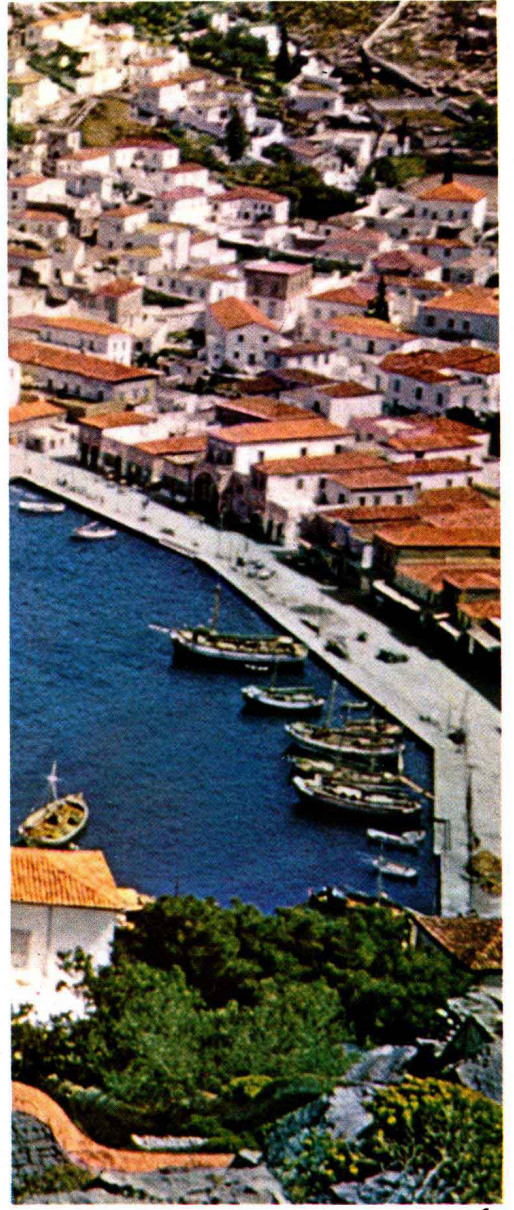
1



2



3



4

アイギナとう — 島 *Aigina I.* ギリシアのペロポネソス半島とアッティカ半島にはさまれたアイギナ湾(またはサロニカ湾)内にある島。面積約85平方キロ。人口約1万(1967)。アッティカ半島のピレウスの南方約32キロに位置し、島の北西部と東部に山地があるほかは、肥沃な耕地に恵まれている。同島は、ギリシアと東地中海方面との交易によって、前2000年のころから繁栄をつけ、ミューケナイ文明の中心地であった。この時代の出土品である陶器などが大英博物館に所蔵されている。

るが、それらは、クレタ文明の影響を示す資料とされている。前1000年ころにドリス人が島の北西岸に都市国家アイギナをおこし、海上貿易で発展しながら、対岸のアテナイと商権を争う一大強国となった。ペルシアとの「サラミスの海戦」では、アイギナの軍船が活躍したことが記録に残っている。前133年にローマに征服されて以来さびれていたが、近世にはベネツィア共和国やオスマン帝国の統治のもとで地方商業都市アイギナが旧市の近くにおこり、ギリシア独立戦争時の1826～28年には、

同市に仮首都がおかれた。今日の同島は、小規模な近郊農業と漁業のほか、観光地区としてにぎわっている(写真①②③④)。古代遺跡としては、1901年にドイツの考古学者アドルフ・フルトベングラーが発掘したアファイア神の聖域が有名であり、とくに、前5世紀のアファイア神殿は初期ドリス様式の典型とされ、近年、ギリシア政府によって復元されている。また、神殿にあった破風(はぶ)の彫刻は美術史上有名であり、現在ミュンヘン博物館に所蔵されている。

あいくんし

アイグンじょうやく 愛琿条約 1858年5月にアムール河岸の愛琿(アイグン)で、帝政ロシアと中国の清朝が締結した条約。帝政ロシアが清朝末期の政情混乱に乗じて支配地域の拡大をはかったもので、同条約によりアムール川左岸がロシア領、ウスリー川以東の沿海州がロシア、清朝の共同管理となった。ついで、ロシアは1860年の北京条約により沿海州も領土とした。

アイゲウス Aigeus ギリシア神話でのアテナイ王。父王がアッティカより追放されたため諸国を放浪し、のちに帰国して、3人の弟たちの協力によって王となる。息子テセウスがクレタ島の迷宮にすむ怪物ミノタウロスを退治に行くとき、成功したら船の帆を白にして帰るという約束をしたにもかかわらず、成功に酔ったテセウスが約束を忘れて、帆を黒のままにして帰ってきたので、彼は悲しみのあまり、投身自殺をとげた。

あいさ(属) Mergus (学) 鳥類ガンカモ目ガンカモ科の1属。近縁異属にもアイサの名をもつものがあり、アイサ類として3属7種が知られる。くちばしが細長く鋸歯(きょし)状となっていて、小魚、小甲殻類を捕食するのに適している。短い脚が体の後方についているため潜水が得意。新旧大陸の中北部で繁殖。ヨーロッパ南部、北アフリカ、北アメリカ、アジアに渡るウミアイサは、もっとも多い種で、翼長約27センチ、くちばしと脚が金色、胸と頭と喉が赤褐色、後頭部に黒い冠羽がある。肉はまずくて、食用には適さない。

アイシンギョロ 愛新覚羅 中国の清代帝室の姓。清室は、漢民族ではなく、中国東北部の満州族女真の出身であり、姓のアイシンは女真語で〈金〉の意。ギョロは、同族のなかで帝室系とそれ以外の者とを区別するために、帝室系にかぎって用いられたもの。清朝は1912年に倒れたが、34年、愛新覚羅溥儀(1906～67)は日本軍部によってつくられた満州国で皇帝となり、45年、日本が第2次世界大戦に敗退するまで帝位にあった。

アイスキネス Aischines 390? B.C. ～330 B.C. アテナイの雄弁家、政治家。悲劇役者から身をおこし、前346年にマケドニアのフィリッポスとの和平交渉にあたって、マケドニアに有利な条件を与えたため、反マケドニア派のデモステネスとのあいだに、激しい論戦をおこし、これをきっかけとして、マケドニアにギリシアへの内政干渉の口実を与えた。その演説のいくつかが現存している。晩年は、ロードスにシリゾキ、雄弁術を教えた。

アイスキュロス Aischylos 525/4 B.C. ～456 B.C. ギリシアの悲劇詩人。聖地エレウシスの神官エウフォリオンの子に生まれ、20代で劇作をはじめたが、時代が祖国アテナイにとっては激動期であったため、戦士として、馬拉トンの野に、また、サラミスの海戦に参加して戦った。したがって、詩人としての名声を得たのは50歳になってからである。約90あるとされる作品のうち、完全なかたちで現在に伝えられているのは「救いを求める女たち」(初期)、「ペルシア人」(472B.C.)、「テーバイにむかう7

人」(469B.C.)、「縛られたプロメテウス」(後期)、三部作「オレスティア」(458B.C.)の「アガメムノン」「コエフォロイ」「エウメニデス」である。アテナイの市民が、ペルシアとの戦争によって、愛国心を高揚させているときでもあり、彼も愛国者として、神々の正義と運命の力とたたかう英雄の行いをあつかった悲劇に力をそそいだ。また、俳優でもあった彼は、それまで1人であった主役を2人にして、劇的な効果をたかめる対話形式を採用し、いっぽう、ギリシア劇において重要なコロス(合唱隊)を新しく加えた。

アイスクリーム ice-cream (英) 乳製品的一种。牛乳を主原料とし、鶏卵、砂糖、粘料(ゼラチン、寒天、アルギン酸、アラビアゴム)、香料、着色料などを加えて攪拌冷凍した氷菓子。栄養価は高く、間食、デザート、病人食、幼児食に用いられる。1550年にイタリアでシャーベットふうの氷菓子がつくられ、これがフランスのルイ王家に伝えられてから、今日のものに改良された。

アイスホッケー ice hockey (英) スケートをはいて氷上でおこなうホッケー。1チーム6人。19世紀の後半、それまでイギリスやオランダでおこなわれていたバンディという競技を改良してつくられた。

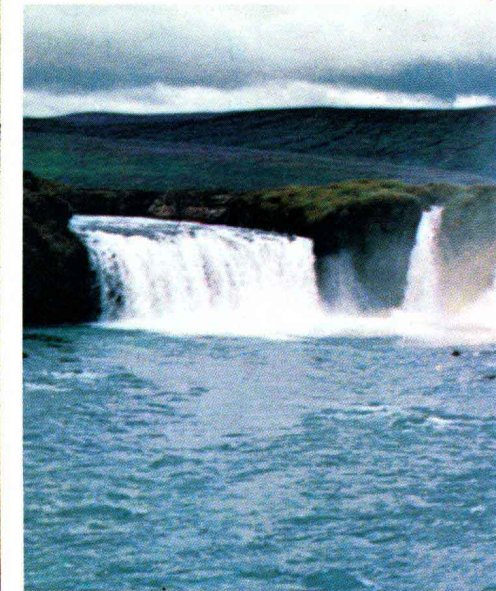
アイスランド  [写真項目]

アイスレーベン Eisleben ドイツ民主共和国(東ドイツ)



アイスランド Iceland 北極圏に近い北大西洋上にある共和国で、正式名称はアイスランド共和国。面積10万3000平方キロ。人口21万5000(1974)。公用語アイスランド語。通貨アイスランド＝クローナ。首都レイキャビク。隣接する陸地への最短距離は、北西のグリーンランドの海岸に250キロ、東のノルウェーの海岸に910キロである。島の地形は東西にのびる卵形で、東部と北部に海拔1000～2000メートル級の火山が約30ある。写真①は、死火山の火口。②は、間欠泉。今日でも、1万3000平方

キロの水河があるが、水河時代には全島が水河におおわれていたため、その水河の融水作用と火山活動による溶岩によって、滝や溪谷が無数につくられている。写真③は、黄金の滝。海岸線は屈曲に富み、奥深いフィヨルド(峡湾)は、主力産業のクラニシン漁業の基地となっている。年平均気温が低地で4度のため、土地はほとんど耕作に適せず、主として牧畜がいとなまれている。8世紀ころまでは無人の島であったが、9世紀になってバイキングが発見し、870～890年のあいだに、ノルウェー人



とアイルランド人が移住してきて発展し、1262年にノルウェー王の統治下にはいり、1380年にデンマーク領となった。近代になって独立運動がおこり、1918年にデンマーク主権下の自治国、44年6月に国民投票によって共和国が成立した。現在、ケフラビークの飛行場には、国際空港、アメリカ合衆国軍基地、北大西洋条約機構(NATO)基地などがおかれ、同国の国際的地位を示している。バイキングの文化をいちはば色濃くうけついている国といわれ、いっぽう、社会保障制度の充実もめざましい。

ツ)南西部、ハレ県にある都市。人口3万800(1969)。銅、銀、ウランの鉱山都市で、なかでも、銅は東西ドイツを合わせた総産額中の90パーセントを産出している。また、宗教改革者ルターの生誕の地であり、博物館となっている生家、洗礼をうけた15世紀の教会などがある。

アイゼナハ Eisenach ドイツ民主共和国(東ドイツ)西部、チューリンゲン州の都市。人口5万1000(1972)。鉄道の分岐点であり、自動車、機械、ガラス、金属などの工業がさかん。12世紀にはじまる都市で、ロマネスクとゴシックの教会、18世紀の古城、現在は博物館になっているヨハン＝セバスティアン＝バッハの生家、宗教改革者ルターの住んだ家など、歴史的建造物が多い。また、1869年には、ドイツ社会民主党が同市で大会を開催して、いわゆる「アイゼナハ綱領」を決議した。

アイセル湖 — 湖 Ijssel L. オランダ北西部にある淡水湖。14世紀まではフレボ湖と呼ばれていたが、嵐のために北海とつながって海湾ゾイデル海となり、1932年に延長30キロの締切堤防が完成して現湖名になった。30年から干拓工事が進められており、80年の完成時には23万ヘクタールの干拓地が得られる予定で、同国の人口問題と産業にとって重要である。

アイゼンハウアー Dwight David Eisenhower 1890～1969 アメリカ合衆国の第34代大統領(在職1953～61)。陸軍元帥。テキサス州の生まれて、陸軍士官学校ウェス

ト＝ポイントを卒業後、フィリピン軍事使節団や参謀本部作戦部長を歴任し、第2次世界大戦ではヨーロッパ方面連合軍最高司令官として、ノルマンディー上陸作戦などを指揮した。1945年に合衆国陸軍参謀総長。48年にコロンビア大学総長。50年に北大西洋条約機構(NATO)最高司令官。52年の合衆国大統領選挙に共和党から出馬して当選し、56年に再選された。外交面では、朝鮮やインドシナの休戦を成功させた反面、U2型機事件などでソビエト連邦との関係を冷戦化させ、国内的には、経済発展における民間主導を推進して大資本を優遇した。

アイソトープ isotope (英) 原子番号が等しく、質量数が異なる元素。同位体または同位元素ともいう。1906年にアメリカ合衆国のボールトウッドが、ウラン崩壊で生成する新放射性元素のイオニウムがトリウムときわめて類似した化学的性質をもつことを発見し、13年にドイツのファヤンスが、放射性元素のβ崩壊では質量数是不変で原子番号だけ1つ変化するという変異法則を見いだして、イオニウムはトリウムと等しい原子番号をもつことが明らかにされた。同年、イギリスのソディは、これらの元素が周期表の同じ場所に位置するところからアイソトープ(同位元素)の名を提唱し、アイソトープの概念が確立された。アイソトープには安定なものと、不安定な放射性同位元素(ラジオアイソトープ)とがあり、今日では、すべての元素にアイソトープが発見されている。放射性同位元素は、トレーサーや放射線の性質を利用して、化学、農学、医学、工学などきわめて広い応用

範囲をもっている。

アイダホ Idaho アメリカ合衆国、西部山地にある州。面積21万3906平方キロ。人口約79万9000(1974)。州都ボイゼ。地勢は、北部がロッキー山地に、南部がスネーク川盆地に属している。したがって産業も、北部では、銀、鉛、亜鉛、ウラン、燐などの鉱業と林業、南部ではやせたステップを灌漑して、ジャガイモ、コムギ、豆類、果実、牧畜などの農業がさかんである。観光地は、ロッキー山脈の氷河湖、サン＝バレー＝スキー場、南部のオレゴン州との州境にあるスネーク川のグランド＝キャニオン大渓谷などがある。かつては、合衆国とイギリスとの共有地オレゴンの一部であったが、1846年に合衆国領、90年に合衆国43番目の州となった。

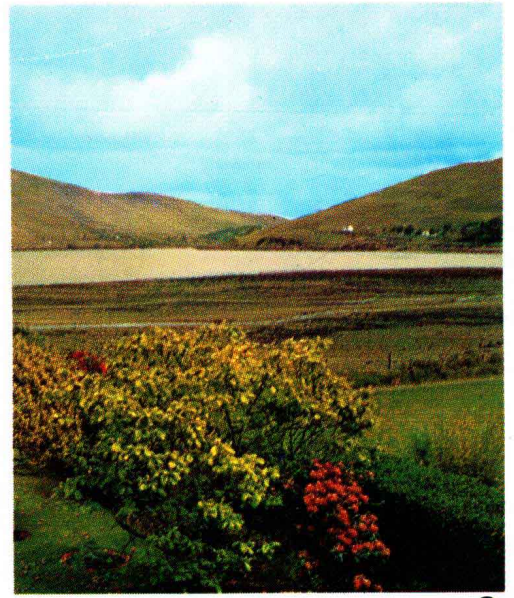
あいち 愛知(県) 日本の本州中部、太平洋側の県。面積5109平方キロ。人口592万3499(1975)。県都名古屋。北で岐阜、長野、東で静岡、西で三重の各県に接し、南では、東部で渥美半島が西へのびて遠州灘と三河湾とを分け、中部で知多半島が南へのびて三河湾と伊勢湾とを分けている。地勢は、内陸東部に三河高原があるほかは平地となっており、西部は木曾川のデルタ地帯で濃尾平野の東半を占め、三河湾岸に矢作川の岡崎平野、豊川の豊橋平野がある。古代から、農水産物の豊かな地方として知られ、交通の便もよいことから近世には織田信長、豊臣秀吉、徳川家康など全国統一を争った勢力が輩出した。産業面でも、機業、窯業の歴史が古く、今日では、



1



2



3

アイルランド Ireland ヨーロッパ大陸の西、北大西洋北東部に浮かぶ、アイルランド島にある共和国。旧名はアイレ。面積7万283平方キロ。人口308万6000(1974)。公用語アイルランド語と英語。通貨ポンド(=100ペンス)。首都ダブリン。アイルランド島は、アイリッシュ海をへだて東方のグレート＝ブリテン島とむかいあい、島自体の面積は8万4429平方キロで、そのうち、北部の1万4146平方キロがイギリスの北アイルランドに属している。いちばん高い山で1041メートルと、低平な島で、

なだらかな山や丘陵がつづき、中央部には平野もみられるが、氷河時代には大陸氷河におおわれていたため、いたるところに氷河湖がある。また、石灰岩の溶食のためにできた凹地に水がたまり、湖沼となったものも多い。東海岸は単調であるが、大西洋岸は沈降性海岸で屈曲に富んでいる。写真①は、モハーの崖。②は、アキル島。③は、キリー湾。偏西風とメキシコ湾流の影響を受けて、気候は温暖であり、〈緑の島〉を意味する島名が示すとおり、島の70パーセントが森林や農地や牧場などの緑

におおわれている。北アイルランドが工業地域であるのに対して、同国は天然資源に乏しく、また、川が緩流であることから動力源にも恵まれず、重工業は未発達である。産業は、農業、牧畜、水産のほかに、食品加工がある。同島の最古の住民をイベリア族とする説もあるが、確認はされていない。新石器時代のドルメンなどの巨石建造物が残されているので、人間が住みはじめたのは、そのころからと考えられる。その後、ケルト族が前9世紀ごろに銅器、前4世紀ごろに鉄器、前1世紀ごろに

機械、化学工業、雑貨製造のさかんな中京工業地帯の中核部をなしている。農業面でも近郊農業化が進み、県東南部では愛知用水、豊川用水などにより、丘陵地での果樹や野菜栽培、畜産などがさかんである。漁業では、海苔(のり)、ウナギなどの養殖がおこなわれている。主要都市は、名古屋、豊橋、豊田、一宮、岡崎、春日井、安城、瀬戸、刈谷、豊川、小牧、東海、江南、半田、蒲郡、西尾、稲沢など。

アイヌ 東アジアの古代民族の一種。かつては、樺太(サハリン)、千島(クリル列島)、北海道、日本内地に住んだが衰退し、今日ではサハリンに約1300、北海道に約1万5000人残りのみとなり、ほとんどは日本人との混血によって人種的特質は薄れている。狩猟と漁業に従事し、文学、美術、舞踊などに独自の文化をもっている。

アイバク Qutb al-Din Aibak ?~1210 インド奴隷王朝の創始者(在位1206~10)。グル朝ムハンマド・グラーイー王の奴隷から身をおこして、インド侵略のときに将軍として活躍した。その後、北インド統治をまかされていたが、ムハンマド・グラーイー王が暗殺されると同地方を支配圏として独立し、インド最初のイスラム教王国を建国した。

アイビーエム IBM International Business Machines Corporationの略称。アメリカ合衆国に本部をおく世界最大の事務機械製作会社で、とくに同社が製作して賃貸

する電子計算機は世界市場の過半数を占めている。1896年、統計技師ホレリスが自分の発明したパンチカード・システムにもとづく事務機械製作の〈ダビュレーティング・マシーン社〉を設立し、これを母体として発展した。1924年に、現社名に変更。第2次世界大戦前は、電気タイプライターやタイムレコーダーなどが主力製品であり、業績はさほどではなかったが、56年にトランジスタを使った電子計算機、64年に集積回路を使った電子計算機と、新機種をあいついで開発してから飛躍的に成長した。

アイヒマン Adolf Eichmann 1906~62 元ナチ親衛隊中佐、ゲシュタポ(秘密警察)ユダヤ課長。オーストリアの生まれで、1938年に祖国がドイツに併合されるとドイツのベルリンに移住した。第2次世界大戦中に、約600万人のユダヤ人を、オシュフィエンツィーム(ドイツ名アウシュビッツ)などの強制収容所に送りこみ大量虐殺した責任者。大戦後、イスラエル政府の追求をうけ、48年にシリア、50年には偽名を使ってアルゼンチンに亡命した。60年に逮捕されてイスラエルに連行され、法廷でナチス処罰法にもとづき〈ユダヤ人に対する罪〉〈人道への罪〉〈戦争犯罪〉を理由に死刑の判決をくだされ、62年5月テル・アビブ・ヤッファで処刑された。

アイベックス Capra ibex (学) 哺乳類ウシ科の野生ヤギ。ヨーロッパ、アジアの山岳地帯にすみ、積雪期には山麓の森林地帯におりる。弓なりに後方へそる大きな角は90センチにも達し、繁殖期には雌を獲得するため、

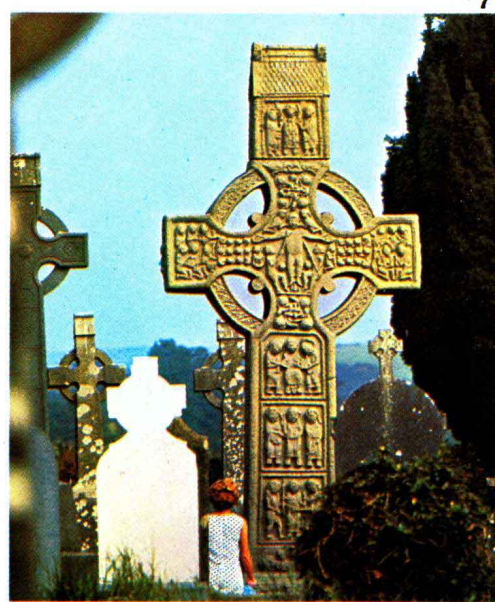
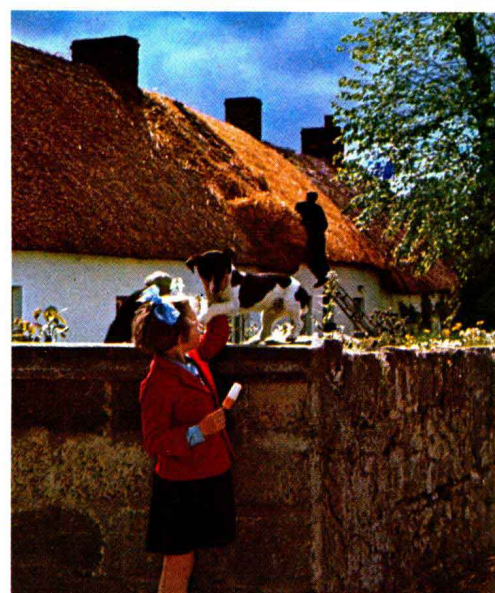
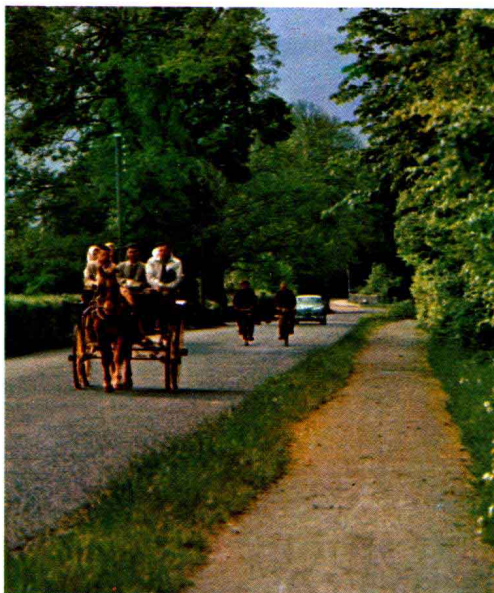
雄同士で角を突き合わせる闘争がみられる。

アイヘンドルフ Joseph F. von Eichendorff 1788~1857 ドイツの詩人、小説家。貴族として、シュレジエンの古城に生まれ、ハレおよびハイデルベルク大学で哲学と法律を学んだのち、反ナポレオン主義者として、2度にわたってドイツ解放戦争に従軍し、戦後、官吏となったが10年ほどで退官して、創作活動をつづけた。彼の叙情詩は、ドイツ後期ロマン派の白眉とされ、シューマンをはじめ多くの作曲家が曲をつけている。小説の代表作は、「予感と現在」(1815)、「のらくら者の生活より」(26)。

アイリス(属) Iris (学) 単子葉植物アヤメ科、アヤメ属の別称。北半球の温帯に180種あまり自生するが、そのうち、園芸的にはアヤメと区別して、鱗茎、根茎の秋植え球根草をアイリスと呼んでいる。代表的なものは、鱗茎種では、ダッチ=アイリス、イングリッシュ=アイリス。根茎種では、ジャーマン=アイリス。

アイリッシュカール —海 Irish S. イギリス諸島のグレート=ブリテン島とアイルランド島とのあいだの海。最高深度で150メートル、平均深度で60メートルの浅い海であり、北はノース海峡、南はセント=ジョージ海峡によって大西洋につながる。

アイルランド — [写真項目] 前ページ。



犁耕(リこう)文化をもって渡来し、先住民と混交してゲール人となった。4世紀ごろにキリスト教がもたらされ、5世紀には聖パトリックによって急速にひろまった。8世紀になるとノルマン人が侵入して、ゲール人はこれと約200年間も戦ったが、しだいに両者は同化して、今日のアイルランド人の祖族となった。9世紀には首都ダブリンが建設された。11世紀になって工業製品を東ヨーロッパまで輸出できるまでに成長すると、イギリス王家はたびたび兵を送って征服を試み、1541年からイギリス国

王がアイルランド国王を兼任した。イギリス支配に抵抗する住民は、土地を没収され、植民してくるイギリス人のもとで貧しい小作農として働かされた。とくに、清教徒革命を成功させたクロンウェルは、カトリック教徒であるアイルランド人から土地を徹底的に収奪し、人権を剝奪した。独立要求、民族語や民族文化の再興などの運動が高まり、1800年に植民地からイギリスに併合されて、29年にはカトリック解放令が成立して差別待遇がなくなったが、19世紀のなかばには凶作がつづき、餓死や

海外移民などで約800万の人口が400万に減少するという大飢饉がおこって、小作農の武装抵抗が頻発した。この結果、1922年にイギリス自治領としてのアイルランド自由国が認められ、37年にイギリス連邦内のアイルとなり、49年4月に独立した。いっぽう、北アイルランドは現在もイギリス統治下にあるため、独立運動がつづいている。写真④⑤のように、地方、都市ともに馬車の利用がさかんである。⑥は、コニマラのキレモア修道院。⑦は、わら屋根の民家。⑧は、17世紀の共同墓地。

アイルランドどくりつうんどう ——独立運動 イギリス支配下にあったアイルランドで、18世紀ころから活発になった独立運動。民族の独立とカトリック教徒としての信仰の自由を求め、たびたび大反乱をおこしては弾圧されていたが、1791年、トーンによって創立された〈アイルランド部隊〉は、アメリカ合衆国独立運動とフランス革命との影響下に組織的な活動をおこし、イギリス議会への参加、およびカトリック教徒に対する差別撤廃のためにたたかった。98年、同部隊はイギリスの弾圧によって解散させられたが、19世紀になると、独立と土地問題とをむすびつけた市民たちの秘密結社〈フェニアン団〉が活躍した。さらに、後継的な性格をもつ〈シン＝フェーン党〉が1905年に結成され、いっぽう、合衆国に移民したアイルランド人たちも〈アイルランド共和国協会〉をつくり、内外から運動を継続した。1916年、共産主義者コンリーのひきいる市民軍とシン＝フェーン党の軍事組織が提携して〈アイルランド義勇軍〉となり、イギリス軍と戦火をまじえた。22年、イギリスがアイルランドを自治領として認めると、同義勇軍は独立アイルランド軍に吸収されたが、一部は、39年に分裂して非合法宣言をすると同時に、今日も、北アイルランドのイギリス支配に反対して運動をつづけている。

アイレ ⇨ アイルランド

アイロニー irony (英) 皮肉、反語、いやみ、あてこすりのこと。イロニーともいう。ギリシア語のエイロネ

イア(あざむく)に由来し、ソクラテスが無知をよそおって、相手の内的矛盾をあばいた哲学問答法として知られている。一般に、真意とは逆の表現を使って相手を信じさせ、結果的にはかえって、より大きな効果をあげて真理に到達させる方法である。とくに、19世紀ドイツ＝ロマン派では、芸術創作、批評上の特続的な原理として用いられ、自我の絶対的優越と精神の自由性の合言葉として、いわゆる〈ロマン的アイロニー〉の言葉が生まれた。

アイロン iron (英) 衣類のしわをのぼし、折り目をつけたりして、形を整える器具。古くから鏡(こて)や火熨斗(ひのし)などが衣類のしわのぼしに使われたが、より効果的な炭火アイロンやガスアイロンが使われるようになったのは19世紀末で、20世紀初頭には電気アイロンが実用化された。しわになった布地に霧を吹きかけ、熱したアイロンをかけると、水分は蒸気になって繊維の弾性もどおり、アイロンの圧力によってしわがのびる。これがアイロンの作用原理であるが、最近では霧吹き装置を内蔵した蒸気(スチーム)アイロンが普及している。

アインシュタイン → [写真項目]

アインスタイニウム einsteinium (英) 記号Es, 原子番号99の超ウラン元素のひとつ。1952年、太平洋でおこなわれた熱核爆発実験の生成物から確認されたもので、ウランが中性子捕獲をくりかえし、 β 崩壊をおこなって生じたものである。その後、これとは別に発見された質

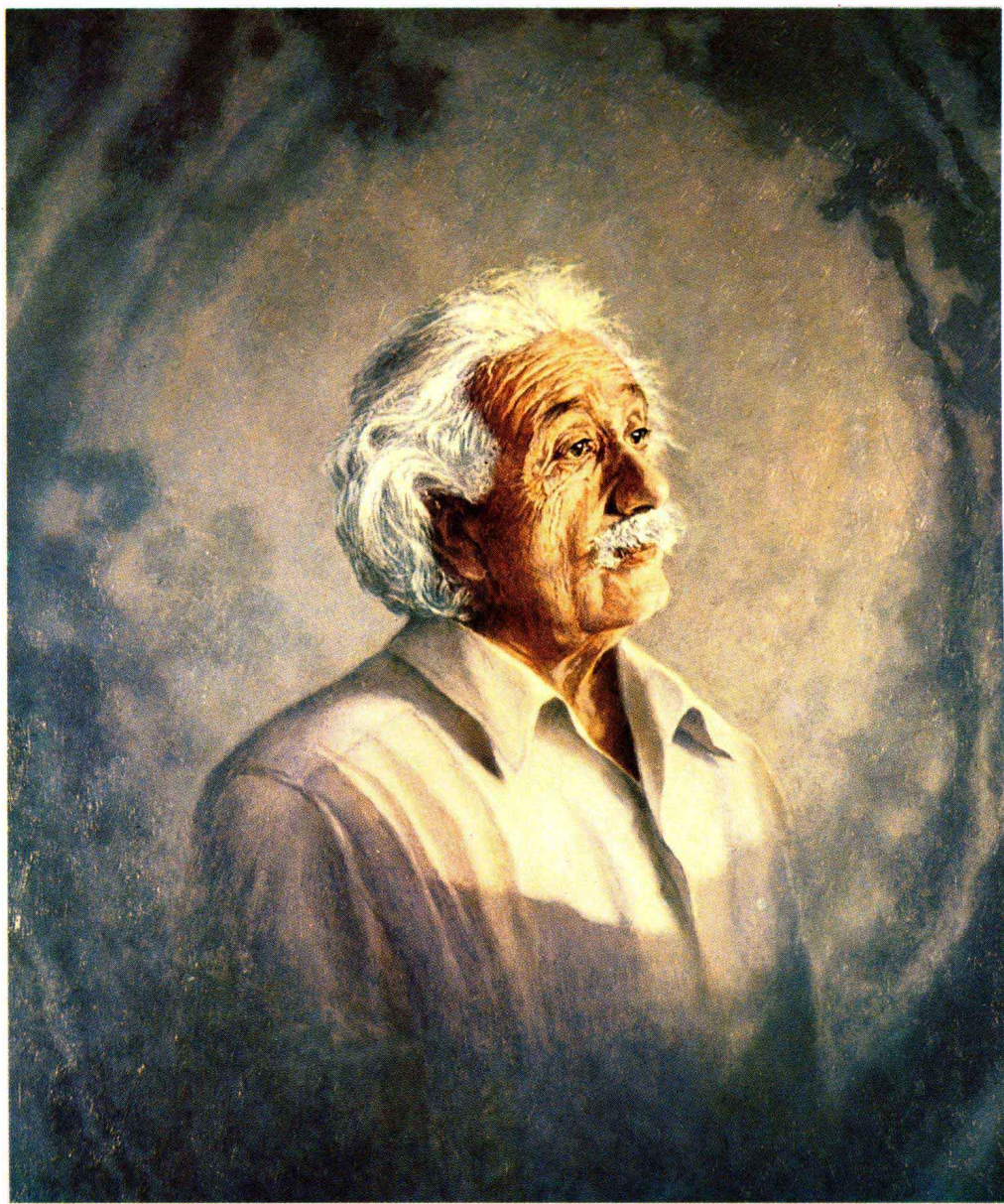
量数254、半減期250日の α 崩壊する核種のほか、10種の放射性核種が知られている。

アイントホーフエン Eindhoven オランダ南部の北ブラバント州の都市。人口18万9400(1971)。都市の成立は1232年と古いが、1891年に電気機器メーカーのフィリップスが工場をつくってから工業都市として発展し、今日ではオランダ第5位の都市となっている。ほかに、たばこ、紡績、酪農製品など。

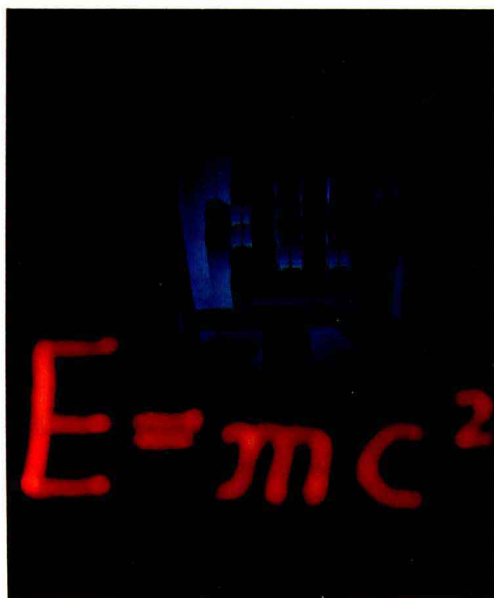
アイントホーフエン Willem Einthoven 1860～1927 オランダの生理学者。筋肉、神経などの活動電流をはかる弦電流計を考案し、また、心臓電気生理を研究して心臓電気図を作成した。1924年、ノーベル医学賞を受賞。

アインハルト Einhard 770?～840 フランク王国の文人、工芸家、建築家。マイン地方フランクの貴族の生まれて、794年ころからカール大帝の宮廷に仕えて、他の芸術家とともに、カロリング朝ルネサンスと呼ばれる文化の花を咲かせた。その後、ルイ敬虔王の庇護を受けたが、830年にオーデンワルトの領地にひきこもり、中世伝記文学の傑作「カール大帝伝」(30～33)を執筆した。また、書簡集も同時代の貴重な史料とされているが、青銅鍍金や建築の分野でも足跡を残しており、ゼーリゲンシュタット聖堂の一部は、彼の作といわれている。

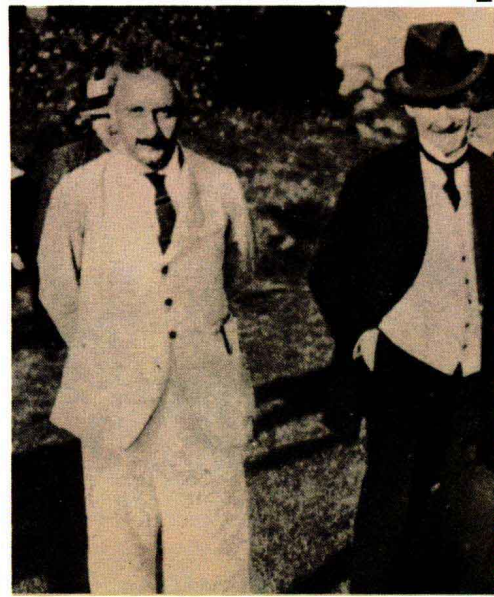
アウアー Leopold Auer 1845～1930 ハンガリー生



1



2



3

アインシュタイン Albert Einstein 1879～1955 ドイツ生まれの理論物理学者(写真①)。スイス、チューリヒのポリテクニクム(工業大学)で、電気工学、物理学をおさめた。1902年に首都ベルンの特許局技師となり、勤務のかたわら、理論物理学の研究に専念した。5年に量子仮説、ブラウン運動の理論、特殊相対性理論などをあいついで発表し、チューリヒ大学の学位をとる。特殊相対性理論は、等速度運動をする慣性系に対する相対性原理と、光速不変の基本原理にもとづいた理論体系で、

$E=mc^2$ は力が仕事をしてエネルギーEを増していくにしたがい、粒子の慣性質量 mc^2 もまたこれに比例して増大するという等価性を示している(写真②)。こうして、ユークリッド幾何学の限界をこえ、原子力解放の理論的根拠を与えた。14年に、カイザー＝ウィルヘルム研究所物理学部長兼ベルリン大学教授、16年にはリーマンの非ユークリッド数学を用いてニュートンの重力理論を修正し、新しい万有引力論を展開した。また、学友の数学者グロスマンの協力を得て一般相対性理論を完成し、こ

の理論は、19年にイギリスの日食観測隊によって正しさが証明された。21年、「理論物理学の諸研究、とくに光電効果の研究」で、ノーベル物理学賞を受賞(写真③)。29年、万有引力場と電磁場とを統一する〈統一場の理論〉を発表し、重力現象と電磁現象に対する単一の幾何学モデルをうちたてた。なお、33年にユダヤ系学者としてナチ政権によりドイツを追われ、アメリカ合衆国のプリンストン高級研究所にむかえられた。また、平和主義者として、〈世界政府〉の提唱に参加した。

まれのバイオリニスト、教育者。ヨアヒムの弟子。近代バイオリン界の巨匠で、ドイツ、ロシア、アメリカ合衆国で独奏、指揮活動をおこない、多数の逸材を育てた。ハイフェッツ、エルマン、ジンバリストは弟子。

アウアーごうきん ——合金 ライター石などに使われる発火合金。オーストリアの化学者アウアー(1858～1929)によって発明され、はじめは、セリウム50パーセント、ランタン、ネオジウム、プラセオジウムなどが45パーセントのものであったが、今日では、鉄30～35パーセント、セリウム、ランタン、その他が65～70パーセントのものに改良されている。

アウィエヌス Rufus Festus Avienus 生没年不詳 4世紀ころのローマの詩人。アラトスの叙事詩「現象」のラテン語訳や、ほぼ同時代のギリシア人、ディオニュシオス＝ペリエグステスの著作を「地誌」の題名で翻訳解説して、中世の天文学、地誌学に大きな影響を与えた。

アウグスティヌス —— [写真項目]

アウグスティノかい ——会 ヒッポの聖アウグスティヌスが創立した共住隠修団に触発され、その「聖アウグスティヌス会則」にもとづいて結成された修道会の総称。1256年、教皇アレクサンデル4世に奨励されて結成した隠修士会をはじめ、7つの騎士修道会、ドミニコ会、聖母マリアの下僕会などが有名である。

アウグストゥス —— [写真項目] 次ページ。

アウグストフ Augustów ポーランド北部の都市。人口1万5000(1967)。白ロシアからつく森林地帯のなかにあつて、製材のほか、ビール醸造、セメント、れんが、亜麻を使つての織物業がある。1560年、シグムント2世によって建設された。

アウグスブルク Augsburg ドイツ連邦共和国(西ドイツ)、バイエルン州の都市。人口21万1500(1971)。ミュンヘンの西北西約60キロに位置し、レヒ川とその支流のウエルタハ川の合流点にある。前15年、ローマ皇帝アウグストゥスの治世下に建設され、10世紀には司教都市として発展した。1276年、神聖ローマ帝国の自由都市となり、15世紀以後、フッガー家、ウェルザー家などの大金業者があらわれて、ヨーロッパの商業を支配する一大中心地となった。フッガー家の繁栄を示すフッガー館は、今日、博物館として保存されている。ドイツとイタリアとを結ぶ交通の要地として栄えたアウグスブルクは、ヨーロッパにおける商業の主流が、地中海から大西洋に移るにつれて衰へはじめ、三十年戦争で大被害をうけた。今日では、豊富な水力を利用した繊維や機械工業があり、南ドイツにおける鉄道交通の要地として知られる。

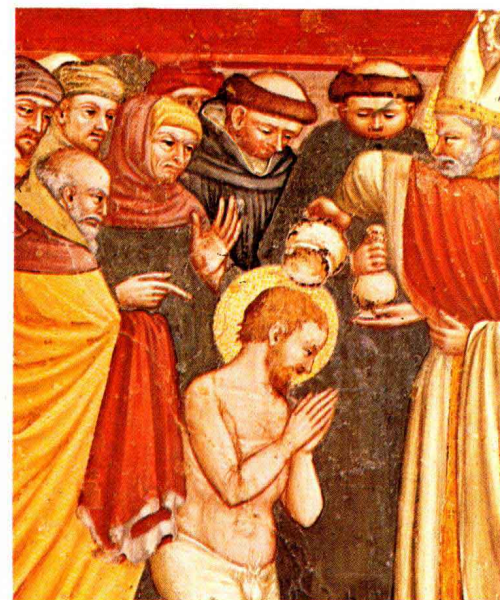
アウシュビッツ ⇨ オシュフィエンツィーム

アウステルリッツ ⇨ スラフコフ

アウステルリッツのたたかい ——の戦 1805年12月、アウステルリッツ(現チェコスロバキアのスラフコフ)で、ナポレオン1世がオーストリアのフランツ1世とロシアのアレクサンドル1世との同盟軍を破つた会戦。3人の皇帝が戦場に集まつたので「三帝会戦」とも呼ぶ。同盟軍8万に対して、ナポレオン1世の軍は7万と劣勢であったが、早朝の濃霧のなかで行動をおこし、太陽の輝いたときには敵軍の中央を突破し大勝していた。ナポレオン1世全盛を象徴する戦いであり、また、史上初の近代的大野戦であった。

アウストラロピテクス りい ——類 *Australopithecus* (学) 1925年、南アフリカのベチアナランド(現ボツワナ共和国)のタウングスの石灰洞穴で発見された化石人類の一群。はじめは6歳くらいの小児頭骨しか発掘されなかったため、類人猿とする説が強かった。その後、36年、38年、47年と発掘がつづくなかで、頭蓋容量が大形類人猿よりもわずかに大きく、人類の進化段階にあったことを示す、直立歩行が可能な肢體構造をもつ化石が発見された。さらに、石器などが発掘されたことから、人類であることが証明された。カリウム＝アルゴン法によると、185万～110万年前に生息していたとされている。

アウタルキー Autarkie (独) 本来は、国内で資源や原料が得られ、外国市場を必要としない自給自足的な経済の意であるが、今日では、自国市場を対外的に封鎖した経済体制をさす経済用語。この用語が、今日的な意で



アウグスティヌス Sanctus Aurelius Augustinus 354～430 初代キリスト教会の代表的な教父、聖人(写真①)。北アフリカのヌミディア州(現アルジェリア)タグASTEに、異教徒を父にキリスト教徒モニカ(聖女)を母として生まれる。14、5歳のころ、カルタゴに遊学して法律と修辞学を学び、そのとき聖書に接したが哲学的内容の乏しいのに失望して、374年にはゾロアスター教の一派マニ教の信奉者となった。その後、故郷のタグASTEをはじめ、カルタゴ、ローマ、ミラノなどで修辞学の教師をつづ

けながら、新プラトン主義からキリスト教にいたるまでの屈折した思想歴をかきねた。写真②アフリカを去るアウグスティヌス。ミラノで司教アンブロシウスと知り合つて大きな感化をうけ、やがてキリスト教に改宗して、87年に洗礼をうけた。写真③聖アンブロシウスにより洗礼をうけるアウグスティヌス。洗礼をうけてから3年後に、固い決意をもって、故郷タグASTEに帰り、財産を処分して求道的な修道生活にはいった。91年、彼自身の意に反して、ヒッポの司祭となり、96年に司教に昇格

し、それから死ぬまでの34年間を、多忙な司教職をつとめながら、古典的異教文化に対抗する西方ラテン＝キリスト教の代表的な神学者として、多くの著書をした。代表的著書に「キリスト教義」「三位一体論」「自由意志について」「神の国」「告白録」など。彼の業績は、聖書のキリスト教原理にもとづき、古代文化と異教文化をも、論理的に解析できる歴史神学を樹立したことである。これは、教会教義の絶対的な権威として、中世にまで伝えられた。祝日は、8月28日。

使用されるようになったのは、1930年代の世界恐慌のときに、資本主義列強が自国経済を保護するため、植民地をふくめた自国市場に他国資本が介入しないよう関税などの壁をはりめぐらして、その圏内で自給自足を意図したことによる。アウトアルキーには、絶対的アウトアルキーと相対的アウトアルキーとがあって、前者は外国市場から完全に孤立したものであり、後者は対外依存度をできるだけ減らして、自給自足に近づこうとするものである。

アウト Jacobus Johannes Pieter Oud 1890～1963 オランダの建築家。アムステルダム工芸学校を卒業したのち、ドースブルフたちと『デ・スティール』誌の創刊に参加し、建築家は合理主義的な態度で社会的意義の大きい課題に挑むべきだと提唱した。したがって、彼の作品には、「フーク＝ヴァン＝ホランドの労働者集合住宅」「ロッテルダム集合住宅」など、庶民のための集合住宅が多い。

アウトストラダ Autostrada イタリアにある、自動車用高速道路。1924年から建設されたもので、車線の分離や交差点の廃止など、当時の自動車道路としては、水準の高いものであった。

アウトバーン Autobahn (独) 本来は「自動車道路」の意で、今日では、西ドイツのブンデスアウトバーン(高速自動車国道)の通称。ナチ時代に完成されたライヒスアウトバーンも有名。また、その他の国でも高速自動車

道路の意に用いることが多い。

アウフタクト Auftakt (独) 拍節法での弱拍を意味する音楽用語。楽曲構成上では、つぎの強拍に結びつく弱拍構造をいう。

アウフヘーベン Aufheben (独) ものごとの矛盾や対立を、否定を媒介として統一する哲学用語。弁証法における重要概念のひとつで、ヘーゲルが規定した。

アウランガーバード Aurangabad インド中部の、マハラシュトラ州の都市。人口15万500(1971)。デカン高原の西部にあり、かつては、ムガル帝国の首都であった。その第6代皇帝アウランジーブが同市の繁栄に大きく貢献したため、この市名がつけられた。郊外にタージ＝マハルをまねた妃の墓廟がある。石窟で有名なアジャンター、エローラーが近くにあり、それらへの観光の拠点となっている。

アウランジーブ Muḥī ud-dīn Muhammad Aurangzēb 1618～1707 インドのムガル帝国第6代の皇帝(在位1659～1707)。皇子のころ、デカン太守をつとめながら貿易商人を起用して財力をたくわえ、父帝が病気のとき、兄の皇子との帝位継承戦に勝ち、父帝を幽閉して帝位についた。治世の初期には、各地に遠征して領土を拡大したが、後期には官僚たちの腐敗と農民の反乱がつづき、さらに、狂信的なスンニー派イスラム教徒として異教徒を

弾圧したため、ムガル帝国の崩壊を早めた。

アウレウスさんか ——金貨 ローマ帝政期に铸造された金貨。当時の政治家の頭部がきざまれており、前1世紀ころさかんに流通したが、ネロ帝の時代から、財政が悪化するたびに改铸されて質が低下した。

アウレリアヌス Lucius Domitius Aurelianus 215?～275 ローマ皇帝(在位270～275)。兵卒から身をおこし、ローマ帝国が内政危機におちいったとき、騎兵隊長であった彼が、軍隊に推されて皇帝に即位した。軍律をはじめ行政機構の改革を積極的におこない、ゲルマン民族の侵入を各地で防ぎ、いっぽう、現存するローマ市の「アウレリアヌスの城壁」を建設した。274年、太陽神を最高の国家神と定める。ペルシア遠征中、部下の反乱によって殺された。

アウロス aulos (ギリシア) 古代ギリシアの管楽器。2本の管からなるオーボエ系の楽器で、アジアからギリシアにはいり、酒神ディオニソスの祭りの音楽に使われた。後世のティンパ、クラムス、オーボエ、クラリネットは、この楽器が発展したもの。

アウンサン Aung San 1915～47 ビルマの独立運動家。地下活動中の1940年に日本へ脱出し、第2次世界大戦がはじまると、日本軍に協力してビルマ独立義勇軍を結成したが、のちに日本軍と戦う。戦後、反ファシスト



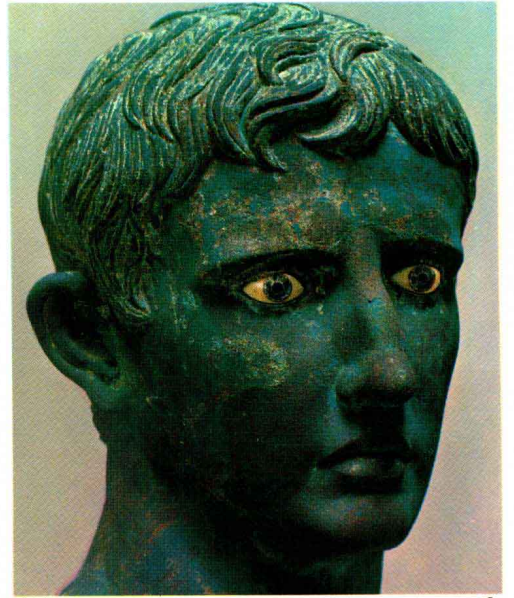
1



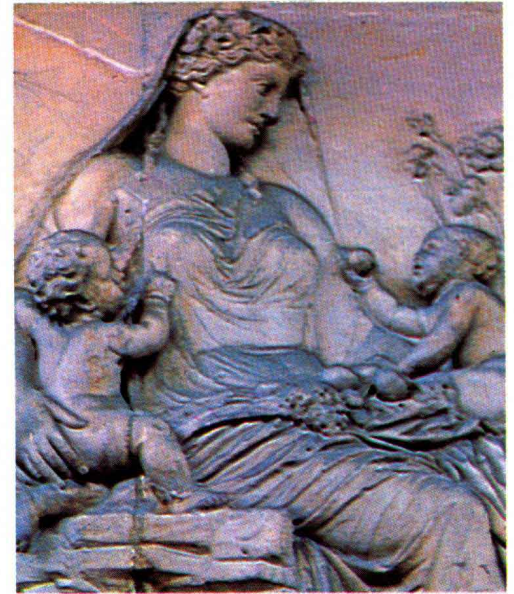
2



3



4



5

アウグストゥス Augustus 63 B.C.～14 A.D. ローマ帝国の初代皇帝(在位27B.C.～14A.D. 写真①)。本名は、はじめにオクタウィウス、前44年から、ガイウス＝ユリウス＝カエサル＝オクタウィアヌス。母がカエサルの姪であったところから、その養子となり、前44年にカエサルが暗殺されると旅先からローマにもどって政治生活にはいった。写真②は、青年時代の肖像。やがて、カエサルの遺将たちの抗争をたくみに利用して勢力をのびし、前43年にはアントニウスやレビドゥスとともに国家再

建三人委員会(第2次三頭政治)を構成した。同年、軍をおこして、カエサルの暗殺者ブルトゥスとカッシウスをフィリッピの戦いで敗死させた。その後、アントニウスが東方に去って、エジプトのクレオパトラ7世とむすび、レビドゥスが北アフリカの統治にあたると、西方が彼のものとなり、ローマ帝国は3分された。前36年に対抗者ポンペイウスを破り、つづいてレビドゥスを失脚させて三頭政治から除き、アントニウス征討の軍をおこした。前31年9月、アクティウムの海戦で大勝利、翌年に

はアントニウスの本拠エジプトに攻め入って彼とクレオパトラ7世を自殺させ、ローマ帝国の内乱をすべて鎮めた。写真③は、アウグストゥスの凱旋門。ローマに帰ると、戦時に与えられていた非常大権を元老院に返し、前27年には、アウグストゥス(尊厳者)の称号を贈られて形式的には共和政をとったが、実質的には帝政へ踏みだした。前23年にコンスル職、前12年に最高司祭長(写真④)。前2年に国父となり、領土をひろげ、内政を充実させてローマ帝国の礎を築いた。写真⑤彼の時代の浮彫。

あえき

人民自由連盟を組織して政界で活躍中に、反対派によって暗殺された。

アエギル Aegir 北欧神話の巨人。フレルまたはギミルともいう。海の主で、神の位階はもたなかったが、アースの神々と友好を結び、その広間は黄金で光り輝いていた。妻ラン(誘拐する女)は名のとおり、航海者を捕らえる恐ろしい巨人で、9人の娘を生んだ。

アーエーゲー AEG Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaftの頭文字をとってつけた略称。西ドイツ最大の電力企業で、電力、照明設備、発電所、電気鉄道、タービン、鉱工業用電気設備、無線、家庭用電気機器を製造している。1883年に〈ドイツ＝エディソン応用電気会社〉として創立され、1912年には、ドイツ電気産業界の2大トラストとしてジーメンズ社とならび、傘下200の会社を支配した。29年、アメリカ合衆国のモーガン資本に株の3分の1を取得されて以来、GE(ジェネラル＝エレクトリック)の支配下におかれ、第2次世界大戦によって、海外資産と東ドイツの9工場を失ったが、戦後に復活し、今日では、大戦前にもまして巨大化している。

アエタゾク 一族 フィリピン先住民ネグリト系矮小(わいしょう)黒人種の総称。特徴は背が低く、頭髪がちぢれ、肌が黒色であること。現在は、フィリピン人の主体となっているモンゴロイド(類蒙古)系住民に押され、わずか数万人が僻地で暮らしているにすぎない。生

活は、狩猟、漁労、野生食物の採取が主で、ごく一部ではあるが、初期的な焼畑農業もおこなっている。

アエティウス Flavius Aetius 396?～454 西ローマ帝国の将軍。451年のカタラヌムの戦いで、フン族の王アッティラの軍を破ってガリアから退却させた。

アエネアス 写真項目

アエネーイス Aeneis ローマの詩人ウェルギリウスの長編叙事詩。全12巻。作者の晩年11年間(前30～前19)にわたって執筆されたが未完に終わる。原題は「アエネアスの歌」の意で、ホメロス以来の伝統にならい、トロヤの英雄アエネアスとその部下が、トロヤ陥落後の7年目に神意をうけて各地を放浪し、辛苦のすえ、ついにローマを建国するまでを描いている。全編は、雄大な構構のもとに華麗な技巧をこらし、とくにルネサンス期には叙事詩の典型と仰がれた。第4巻のディドーとアエネアスの悲恋物語は、とくに有名である。

アエミリウスパウルス Lucius Aemilius Paullus ?～160 B.C. 古代ローマの将軍。大貴族の出身。前191年以後、イベリア半島に兵を進め、前182年にリグリア人を破って将名を高める。前168年には、大統領としてマケドニアを破り、ローマ勢力圏の拡張に寄与した。

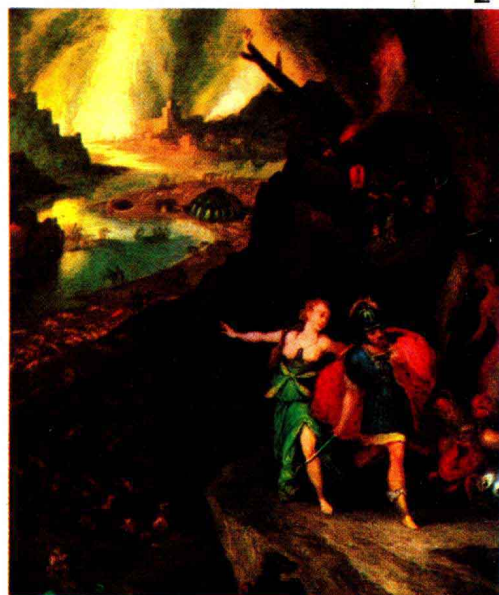
アエロフロート Aeroflot ソビエト連邦の民間航空

輸送部門を経営する国営企業。1923年に創立され、現在では保有機数と旅客数において、世界の民間航空の20パーセント強を占めている。

あえん 亜鉛 記号Zn, 原子番号30, 原子量65.37, 周期表第Ⅱ族に属する元素。比重7.12, 融点419.5度, 沸点907度。青みを帯びた白色の金属であるが、単体の金属としては存在せず、地殻中にひろく分布しており、重要鉱石としては、セン亜鉛鉱、リョウ亜鉛鉱、ベニ亜鉛鉱など。黄銅(真鍮)が古代から知られていたのに対して、亜鉛の冶金技術は17世紀にインドで開発され、中国を経由してヨーロッパに伝えられた。亜鉛には、湿気にあうと表面に酸化亜鉛の膜ができて内部の金属を保護する特性があるため、トタン板(亜鉛びき鉄板)、ダイカスト合金、軸受合金、洋銀などに利用される。

あえんかでんぶん 亜鉛華澱粉 亜鉛華と澱粉を混ぜた粉末剤で、皮膚の水分や脂肪を吸引して冷却する作用があるため、皮膚薬として、ごく初期の炎症に用いられる。

あおしぎ Tringa nebularia (学) 鳥類チドリ目シギ科の1種。ユーラシア大陸の北部で繁殖し、冬は南方のヨーロッパ南部、アフリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどに渡る。水辺にすむ全長35センチくらいの中形のシギで、青色で長い脚をもち、くちばしは中指くらいの長さで、貝や小甲殻類を食べるのに適しており、体背面は灰褐色で、羽縁が薄く、その下面は白い。



アエネアス Aeneas ギリシア・ローマ神話でのトロヤの英雄。ギリシア名はアイネイアス。女神ウェヌス(アフロディテ)の息子で、ホメロスの「イーリアス」では、トロヤ戦争でヘクトルにつぐトロヤ軍の勇士になっているが、ヘクトルがギリシア軍のアキレウスに殺されるのに対して、彼は危険におちいると、かならず神々の出現によって助けられる。写真①は、傷の手当をうけながら息子の肩をだくアエネアス。トロヤの陥落以降は、トラキア、クレタ、カルタゴ、シケリア(シチリア)など

を放浪したという伝説がひろがり、それを素材にしてローマの詩人ウェルギリウスが長編叙事詩「アエネーイス」を書いている。それによると、トロヤを脱出したアエネアス父子は、はじめにクレタ島に行き、つぎのカオニアでその地の王から将来の行くべき土地を教えられてシケリアにむかったが、暴風によってカルタゴに流れ着く。写真②は、漂流する一行。母ウェヌスは、息子の身の安全をはかるために愛神クビドに頼みこみ、カルタゴの女王ディドーに愛の矢をうちこんでもらい、彼女にア

エネアスを恋い慕わせ、異民族の迫害から守った(写真③)。やがて、アエネアスはカルタゴに永住してもらいたいというディドーの愛を裏切ってシケリアに渡り、のちにローマの支配者となる彼の子孫たちの精霊にむかえられて、最終目的の土地ローマにむかう。ローマでは、王ラティヌスの娘ラウィニアを妻とし、対立していたルトゥリ族の王トゥルヌスを破って、ローマ建国の英雄となったという。ウェルギリウス以後も、多くの詩人や画家たちがアエネアスを素材にした作品を手がけている。

あおい — [写真項目]

あおいかい *Argonauta argo* (学) 軟体動物頭足類アオイガイ科のタコ。動物体をさすときはカイダコという。世界の暖海にひろく分布する。雌は約30センチで、第1腕からの分泌物によって、白く美しい殻をつくり、そのなかに産卵する。雄は約1.5センチと小さく、殻をつくらない。

あおいとり 青い鳥 ベルギーの劇作家マートルリンクの、6幕12景からなる童話劇、幸福を求めて、貧しいきこりの子供チルチルとミチルの兄妹が、幻想の国々を遍歴するが、幸福は身近なところにあったという物語で、世界的に子供たちから親しまれている。1908年にモスクワで初演された。

あおいはな 青い花 ドイツの詩人ノバーリスの未完の小説「ハインリヒ＝フォン＝オフターディンゲン」(1802)に出てくる夢のなかの花、あるいは同小説の別名。主人公である13世紀初頭の遍歴詩人ハインリヒは、ある夜、旅人から聞いた不思議な「青い花」を夢に見る。彼は激しい憧れをいだいて各地を遍歴し、ついに老詩人クリングスオールのところへ、夢と同じ乙女マチルデに出会うが、ふたたび夢のなかで、溺死するマチルデを見る。ドイツ＝ロマン派の代表的な作品で、以来、「青い花」はロマン主義の象徴となっている。

あおうみがめ *Chelonia japonica* (学) 爬虫類ウミガメ科のカメ。甲長約1メートルのウミガメで、暗緑色の甲に黄色の斑点がある。太平洋からインド洋にかけてひろく分布し、その肉が美味なところから多くの地方でスープに用いられ、脂肪は石鹸の原料、甲はべっこうの代用品にされる。

あおがえる(科) *Rhacophoridae* (学) 両生類カエル目の1科。俗称では、上面の体色が緑色のものにかぎって呼ばれているが、周囲の色彩に応じて皮膚が変色するので、識別はむずかしい。下面は淡黄色。アマガエルに似ているが、アマガエルのように目から鼓膜にかけての黒斑のないのが特徴。主として、南アジアおよびマダガスカル島に分布する。

あおかび(属) *Penicillium* (学) 子囊菌類コウジカビ目の1属。約150種あり、日常、パンや皮革製品にみられる代表的なカビで、色は緑、黄緑、青緑、ときには、黄、紅もある。トクシカリウム種やイスランディウム種のように毒を出して黄変米の原因となったり、家畜飼料に害を与えるもの、また、ノターツム種やクリソゲナム種のようにペニシリンなどの医薬品となるものがある。

あおき 青木 *Aucuba japonica* (学) 双子葉植物ミズキ科の常緑低木。日本列島と東アジアの一部で、野生あるいは庭木として栽植されている。それらの地方では、肉質の厚い生葉を切傷や火傷の薬として使ってきた。

あおきこんよう 青木昆陽 1698～1769 日本の思想家。名は敦書(あつりのり)、通称文蔵、昆陽は号。江戸時代中期の儒者、蘭学者で、京都で伊藤東涯について古義学を学び、江戸(現東京)に帰って儒学を講じているうちに町奉行大岡越前守に抜擢され、書物方から書物奉行にまで進んだ。在職中には、諸国の古文書を採集整理するいっぽう、「蕃薯考」(1735)を著わして、甘藷(かんしょ)栽培の利を説いた。別名「甘藷先生」は、これに由来する。40年ころからは將軍吉宗の命によって蘭学を学び、前野良沢などに伝授して、日本蘭学派の始祖となった。

あおきしげる 青木繁 1882～1911 日本の画家。福岡県久留米市の旧士族の生まれ。小山正太郎の不同舎を経て、東京美術学校(現東京芸術大学美術学部)で黒田清輝に学び、1903年に白馬会第8回展に出品した「黄泉比良坂(よもつひらさか)」「闇威弥尼(じやいみに)」で認められた。その後も、日本やインドの神話伝説に取材したロマン的な手法をつらぬき、連作「海景」、「海の幸」、「天平時代」などの名作を発表したが、7年、東京府勸業博覧会に出品した「わだつみのいろこの宮」を最後として、九州各地を放浪し、29歳で病没した。

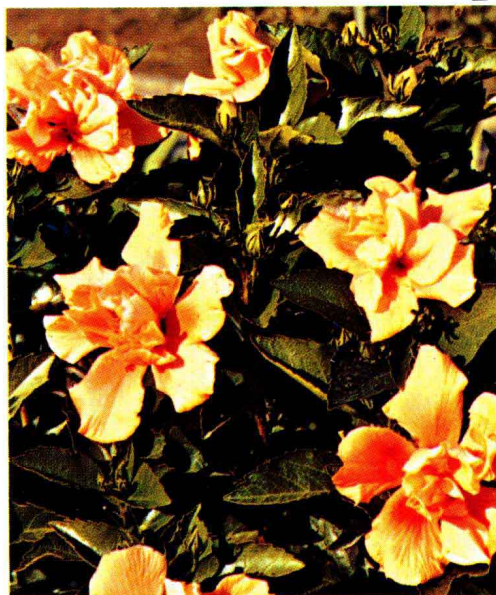
あおぎり 青桐 *Firmiana platanifolia* (学) 双子葉植物アオイギリ科の落葉高木。中国原産。樹高は10～20メートルに達し、樹皮は鮮緑色でなめらかである。葉は掌状に裂け、花は黄褐色で、枝先に円錐状に集まる。庭木として植えられ、材は家具、器具などに利用する。



1



2



3



4

あおい(科) *Malvaceae* (学) 双子葉植物離弁花類アオイ科の総称。おもに熱帯原産であるが、温帯にもひろく分布し、世界に約80属1500種がある。低木または草本で、5枚の花弁と5枚の萼片からなる両性花をつけ、種子には柔らかい毛が密生していることが多い。アオイ科の植物は、繊維、医薬、染料、糊剤、食品などに利用される有用植物が多く、世界的にひろく栽培される。アオイ属には乾燥葉(写真①)をうっ血抑制や痰きりに用いるものがあり、ゼニアオイ(写真②)やフユアオイは観賞

用に庭園や花壇に植え、フユアオイの変種のオカノリは若い葉を食用にする。フヨウ属には観賞用の園芸種が多く、熱帯花木として有名なハイビスカス(写真③)、それぞれ紅蜀葵(こうしよつき)、黄蜀葵(おうしよつき)の名で知られるモミジアオイとトロロアオイ、それにフヨウ、ムクゲなどがある。また、タイ＝ジュートとも呼ばれるケナフは繊維用に、ハイビスカスの花は「花茶」用に、トロロアオイの根は製紙用の糊剤に利用される。アオイ科のなかでもっとも重要なものはワタ属で、数種が世界

各地で栽培されており、種子に生じた白い絹のような毛(写真④)から綿や本綿がつくられている。また、ワタ属の種子は、少量の油脂をふくむので、精製して安価な植物油をとることもある。このほか、アオイ科には、アフリカ原産の1年草で若い果実を食用にするオクラ、中国原産の多年草で観賞用種として親しまれるタチアオイ、インド原産の繊維植物でチャイナ＝ジュートとも呼ばれるイチビ、地中海沿岸地方原産の観賞用種ハナアオイなどがよく知られている。

あおさ

あおさ(属) *Ulva* (学) 緑藻類の1属。浅海に生じるもので、緑色、膜状、2層の細胞からなっている。葉状体がレタスの葉に似ているところから、シー＝レタスとも呼ばれ、家畜の飼料、肥料に使われる。

あおさぎ → |写真項目|

あおじゃしん 青写真 複写に用いられる写真法のひとつ。くえん酸またはしゅう酸の第二鉄塩と赤血塩との混合溶液を塗った印画紙に原画を密着させ、日光、アーク灯、水銀灯などの光線で焼きつけると、3価の第二鉄が光の作用で2価の第一鉄に変化して青色になるという特性を利用したもの。1842年、イギリスの天文学者ハーシェルによって発明された。主として、機械、電気、土木、建築などの工学図面の複写に用いられる。

あおたいしょう *Elaphe climacophora* (学) 爬虫類有鱗目ヘビ科の1種。日本原産で、体長は約1.5メートル、暗緑褐色で、4本の暗褐色の縦縞をもつ個体も多い。毒牙をもたず、ネズミ類を主食とする。同属には、アメリカ合衆国に分布するキイロネズミヘビ、アカダイショウ、西ヨーロッパに分布するものなどがいるが、大きさ、習性がよく似ており、色がやや異なる。

あおナイル 青—— **Blue Nile R.** ナイル川の支流で、エチオピアのアビシニア高原に源を発し、タナ湖を経て、スーダンで南から北に流れ、その首都ハルトウム

で白ナイルと合流する。全長約2030キロ。この名称は、白ナイルの川の水が灰白色であるのに対して、澄んだ青色であるところから命名された。なお、スーダンの流域を青ナイル地方といい、中心都市はワド＝メダニ。流水は、タナ湖の近くで水力発電に利用される。

あおのり(属) *Enteromorpha* (学) 緑藻植物アオサ科の1属。体の一部または全部が中空管状の細胞でできており、扁平な葉状体、管状で分枝するものなど体形の変化がいちじるしい。寒帯から熱帯にかけてひろく分布し、青海苔(あおのり)やつくだ煮として食用にされる。

あおひげ 青鬚 フランスの作家シャルル＝ペローの同名おとぎ小説の主人公。殺人鬼で、6人の妻を殺し、7番目の妻の兄弟に殺される。ふつう、つぎつぎに妻を杀える男の代名詞として使われる。

あおみどろ(属) *Spirogyra* (学) 緑藻植物接合藻目の1属。新鮮な静水中に、緑色の毛髪をとかしたように繁茂する。多細胞の繊維状細胞から形成され、細胞内には、らせん状のひものような葉緑体がある。分裂や接合によって大繁殖し、水田ではイネの育成をさまたげる。

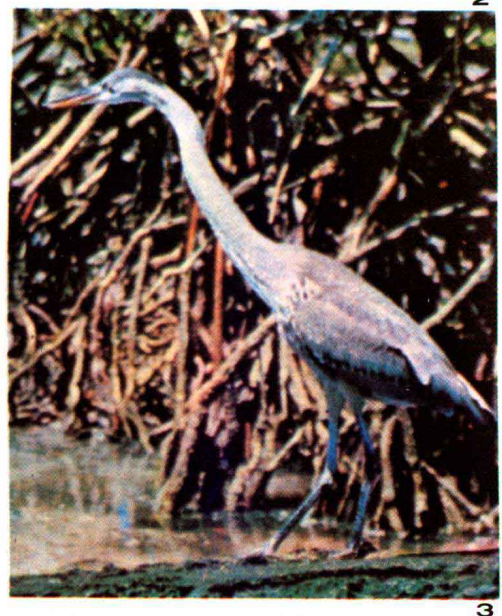
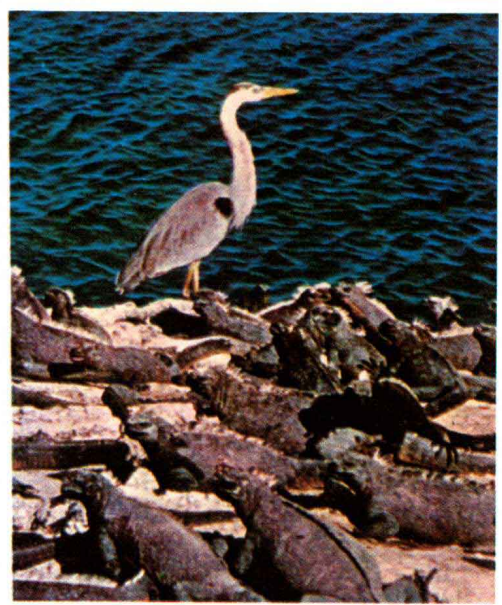
あおもり 青森(県) 日本の本州北端の県。面積9614平方キロ。人口146万8571(1975)。県都青森。南で岩手、秋田の両県と接し、北へ北、津軽の両半島が突き出て陸奥湾を形成しており、北端は津軽海峡で北海道と対し

ている。地勢は、中央に奥羽山脈北端の山地があつて八甲田・十和田火山群や恐山地となっており、西部には岩木山と白神山地がある。平地は、岩木川流域に津軽平野、下北半島基部に三本木原台地がある。米、大豆、菜種、りんごなどの農業と、遠洋漁業や帆立貝養殖がさかんであるが、最近では、大規模な工業地帯建設計画が立案されている。主要都市は、青森、八戸、弘前、十和田。

あおもり 青森(市) 日本の本州北部、陸奥湾内の青森湾にのぞむ港湾都市で、同名県の県都。人口25万7551(1975)。17世紀なかばに港湾としてひらかれ、19世紀末に県都として市制を施行した。その後は北海道との鉄道連絡港としてにぎわい、農水産物の一大集散地となっている。8月の七夕のねぶた祭でも有名。

あか 垢 皮膚にたまつたよごれのこと。脱出した皮膚表面の角質層と汗と皮脂とが外界のほこりにまじつたもので、たまると皮脂や汗の分泌をさまたげ、体温調節や新陳代謝に障害をおこす。

アカイアどうめい —— **同盟** ヘレニズム時代初期の前280年、ギリシアのペロポネソス半島北部、アカイア地方の都市を中心に、12の都市で結ばれた都市同盟。この同盟は、アイトリア同盟とならんでギリシア本土の政局を動かし、スパルタと戦い、また、マケドニア王国の南下を防いでいた。やがて勢力が衰え、前224～前198年のあいだはマケドニアに支配され、前198年に独立すると、



あおさぎ(属) *Ardea* (学) 鳥類コウノトリ目サギ科の1属。12種が、ヨーロッパ、アフリカ北部、アジア、オーストラリアなどに分布している。その多くは留鳥であるが、一部の寒冷地では、冬期に温暖な地方へ渡るものもある。サギ科のなかでは、とりわけ大形種であり、全長約1メートル、翼長約50センチもあって、しばしばツルと見まがええられるが、特徴としては、水かきのついた後指が発達し、黄色のくちばしが長くとり、長いすねの下部と目からくちばしのあいだの部分とが裸出して

いる。羽色は全体が白っぽく、背の部分が灰青色で、首の下部の厚い羽毛に暗色縦線がはしり、後頭に黒色の長い冠羽がある。頭部は小さく、長い首はよく動き、飛ぶときには首を短くちぢめることができる。主として、湖沼または海岸や川辺などに生息し、朝夕、すばやく音もなく飛びまわつては、魚、貝、カエル、カニ、小さな哺乳類などを捕食する。4～6月の繁殖期には、大木の高い場所に枯枝で粗い巣をつくり、青緑色の卵を4～5個生む。その期間は、ふつう、100羽以上の単位で群棲する

が、ときには、シラサギなど他のサギたちの集団にまじつて繁殖することもある。古代エジプト、ギリシア、ローマの時代から、タカを使つてのアオサギ狩猟がさかんであったが、これは、その美しい冠羽が婦人の服飾品として珍重されたためであり、肉はまずくて食用にはされなかった。今日では、魚の養殖をしている地方などで、魚をついばむ害鳥として漁民に嫌われている。写真①②は、ヨーロッパに多いアオサギ。③は、ユーラシア大陸南部、アフリカに分布するムラサキサギ。